

AMDA Journal 号外

ダイジェスト

発行：2005年4月 No.22 定価：100円
 発行元：〒701-1202 岡山市櫛津310-1
 特定非営利活動法人AMDA (アムダ)
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail: member@amda.or.jp
 編集：AMDA Journal 編集室
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

スマトラ沖地震・津波緊急救援から復興支援へ

大災害スマトラ沖地震・津波被災者へのAMDA緊急救援活動に多大なるご支援を頂きまして誠に有難うございました。

皆様のご支援を持ちましてインドネシア、インドそしてスリランカ3カ国において保健医療支援活動を行うことができました。(活動詳細は2頁をご覧ください)

3月13日、AMDA本部にて今回の緊急救援活動に参加したAMDA多国籍医師団10カ国(インドネシア・インド・ネパール・バングラデシュ・カンボジア・スリランカ・カナダ・ニュージーランド・台湾・本部)のメンバーによる復興会議を行いました。メンバーからは支援活動とともに現地の人々からの要望が報告され、具体的な復興支援活動へ向けての協議が行われました。

復興会議



被災地の医療充実と子ども達への心のケア

活動地3カ国ともに、今回の一番大きな犠牲者は子どもたちであり、長期的な心のケアの必要性が訴えられました。インドネシアでは既に、巡回診療と並行して巡回図書館(本の貸出しや読み聞かせ、折り紙指導、さらには一緒に歌やダンスをする)や友情プロジェクト(被災地の子どもたちと日本の子どもたちが、絵の交換を通じて悲しみを共有し、励ましあうことにより友情を促進し、夢を育くもうとする)を実施しています。また、スリランカやインドでは保健医療支援と心のケアを実施していくコミュニティセンターの建設が提案されました。

インドネシア 子ども達への心のケア



インドネシアの被災地バンタアチェでは多くの医療従事者が死亡しました。現地の医療充実のために、AMDA本部とAMDAインドネシア支部長のタンラ氏が教鞭をとるハサヌディン大学と現地のザイナルアビディン病院との協力体制のもと医師、看護師を対象とした臨床教育プログラムを開始します。

スリランカでは先進国並みの保健制度と教育制度を誇るにもかかわらず、学校保健という概念がありません。北部、南部、東部3地域において学校や難民キャンプで巡回診療と保健衛生教育を行っていきます。また、保健衛生教育に従事する人を指導する人材育成プログラムも行っています。

スリランカ 学校保健支援



再びスマトラ沖大地震 (3月28日発生) ニアス島にて緊急救援開始!

放置された大地で

一復興に向け、スーダンでの新プロジェクト開始—
 スーダンプロジェクト担当 小西 司

AMDAは1995年よりスーダンにて洪水救援、マラリア対策などで協力してきました。また2004年10月より、ダルフル地方において、AMDAスーダン支部とともに南ダルフル州市民病院と協力し、医療支援を開始しています。今後は首都ハルツームに事業本部、ニャラ市に医療チームを派遣し、紛争(アラブ系民兵による住民迫害)で生活基盤を失った人々への医療支援を進めていきます。

スーダンではダルフル紛争に加え、20年以上続いた南部キリスト教独立勢

力と政府側との紛争がようやく和平合意に達しつつあります。しかし南部から逃れてきた避難民180万人が今もハルツーム周辺に暮らしており、その故郷への帰還作業はまだ進まない状況です。一方で次々と発見される油田、輸出が急増する石油資源と、それに絡む国際石油資本が水面下で開発と市場を競い、ハルツームにはガラス張りの瀟洒な石油関連の高層ビルが次々と建設されています。

スーダンは、この豊かさの上で繰り広げられてきた長い内戦の歴史を克服し、アフリカとアラブの多様性が共存する豊



かな国となるのか、それとも資源をめぐる外部からの干渉と果てしない混乱に陥るのか。庶民からは手の届かないところで、今、この国は独立以来最大の転換期に差し掛かっています。AMDAは、この紛争、そして狭間で翻弄される人々が平和、明日への希望と家族の生活と安寧を得られる社会を構築できるよう、これからも協力していきます。

スマトラ島沖 津波緊急救援

救える命があればどこへでも

— 緊急救援活動報告 —

200年に一度と言われる大地震と津波が発生した2004年12月26日から2005年3月末まで、被災地インドネシア、スリランカ、インド(2月末まで)の3カ国において実施した、AMDA本部と海外支部9カ国参加のAMDA多国籍医師団による緊急救援活動を報告します。



インドネシア

スマトラ島北部バンダアチェ市で、AMDAインドネシア・カンボジア・カナダ・台湾各支部と岡山本部・AMDA沖縄県支部からの派遣者が緊急救援活動を開始。地震・津波発生直後から2~3週間は、病院(ケスダム軍病院、ファキナ病院、ザイナルアピディン病院)での緊急手術や診療、投薬及び壊滅状態になっていた病院システムの構築やICU病棟、破傷風患者などに対する特別病棟の設置に従事。病院システムの再構築、入院患者受け入れ体制の整備完了後は、医療支援が行き届いていない人々を対象にした巡回診療と仮設診療所での診療を実施。また、1月19日より、ユニセフ(国連児童基金)とインドネシア保健省に協力し、はしかワクチンの接種を実施。



3月には、道路が遮断されていた西海岸アチェ・ジャヤ県でも巡回診療を実施。



スリランカ

北部キリノッチ、北東部トリンコマリ、南部カルタラにおいてAMDAスリランカ・ニュージーランド・カンボジア・カナダ各支部とスリランカ事業スタッフが、被災者を対象に感染症対策を目的とした巡回健康教育とソーシャルワーカーによる心のケアを実施。巡回健康教育に加え、1月24日から従来のスリランカ事業である「スリランカ医療和平プロジェクト」の巡回診療を再開。



インド

タミルナドゥ州で、AMDAインド・ネパール・バングラデシュ各支部と本部派遣者が、1月2日から避難民キャンプ内での処置及診療を行うチームと巡回診療を行うチームの二手に分かれて医療活動を実施。



スマトラ島沖地震・津波被災者医療支援活動へのご支援のお願い

郵便振替：口座 01250-2-40709 口座名 「AMDA」

※通信欄に「インド洋津波」とご記入下さい。

アフガン難民 帰還を支援

パキスタン・クエッタから (アフガン難民支援プロジェクト)

AMDA クエッタ事務所 齊藤 真美子・吉川 勝貴

(AMDA ジャーナル2005.2月号より抜粋)

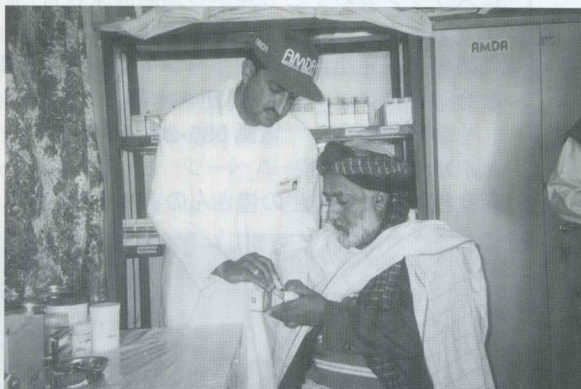
これまでのAMDAの活動

難民大量流入を受けて、2001年10月よりAMDAはクエッタを中心にアフガン難民支援活動を展開してきた。当初はラティファバード難民キャンプ(新難民キャンプ)での診療活動から開始し、国境周辺の町チャマン難民キャンプでの診療も実施してきた。2002年1月には、新難民キャンプ郡を対象とした重症・救急患者搬送システム事業を開始。キャンプ内診療所では対処できない重病患者に対し、クエッタなどの病院で治療を施すための一手段が確保された。2003年8月からはパロチスタン州の全アフガン難民キャンプを対象とし、結核診療・予防活動(TB-DOTS:直接監視下短期化学療法)を実施している。密接したキャンプでの生活は、結核などの感染症の疾患が蔓延しやすく、結核対策はキャンプ運営当初からの課題のひとつでもあった。加え、2004年からは国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)が運営する自主帰還センター(VRC)にて、急患患者に対応すべく診療所活動を行っている。

VRCは、アフガニスタンに帰還しようとする自発的な難民を支援すべく帰還家族の登録を行い、故郷までの交通費等を補助している。難民は数家族でトラック一台を借り上げ、家財道具から家畜まで搭載して祖国へと向かう。その後、無事アフガニスタンに帰還した家族は、UNHCRの運営する受入センターにて支援物資を受け取ることができる。VRCでは、支援物資目当てに再流入する難民を防止すべく、各難民の眼球虹彩登録も行っている。VRC内において、AMDAは難民の安全な帰還を支援すべく、医師を配置した診療所を運営している。急患に対応するとともに、特に女性を対象として衛生教育も行っている。

新難民キャンプ閉鎖と帰還の動き

UNHCRでは8月末日を期限として、帰還を希望する家族の為に、帰還先にて食料・テント、交通費といった特別パッケージを用意し、帰還促進を支援した。一方で在留者の少なくなった難民キャンプは統合・廃止が進められ、給水がとめられたり、居住者の居なくなった家を取り壊されるなど、閉鎖に向けて様々な変化があった。9月



↑ 自主帰還センター(VRC)内での健康診断 ↓



15日までを猶予期間として、パロチスタン州の新難民キャンプはほぼ閉鎖・統合された。

しかし、諸事情により、帰還もままならぬもの、パキスタン滞在を希望するものも多くおり、そうした人々は、親戚・知人のつてを頼り、旧難民キャンプに身を寄せたり、一部はパキスタンの市内各地に流入してきたといわれている。AMDAの活動拠点ラティファバードのキャンプも帰還が進み、かつては1万人を数えた難民も2004年8月には人口1000人以下に減少し、隣接するムハンマド・ケイルのキャンプと統合案が出された。移動も容易であり、環境

もさほど大きく変化しないためUNHCR等関係者間では楽観視されていたが、難民たちはこの統合を受け入れなかった。結果として、大多数がアフガニスタンへ帰還する選択をしたとされているが、一部はパキスタンの各地、および旧難民キャンプへの移動と考えられる。近隣であるにもかかわらず、住民がムハンマド・ケイルのキャンプとの統合を選択しなかった理由の一つに、民族の違いが挙げられる。ラティファバードでは北部系のウズベク、タジク系といった少数民族が主に暮らしており、多数系パシュトゥー民族との同キャンプ居住を好まなかったとの意見もある。こうしたところにも、多民族国家であるアフガニスタンの片鱗が見受けられる出来事だった。

2006年まで、アフガニスタンへの難民帰還を進める中、2004年11月に、パキスタンの首都イスラマバードで開かれた、UNHCRヘルスコーディネーションミーティングでは、引き続き滞在する難民社会に対する活動と、彼らのアフガニスタン帰還後を見据えた活動が課題となっている。具体的には、助産婦、コミュニティーヘルスワーカーといった、難民社会の中から自助努力できる医療従事者の育成と、基礎診療所(BHU)運営能力の強化が挙げられる。

今後の活動

AMDAクエッタ事業では、これまで、新難民キャンプを対象にしてきたレファラル(救急・重症患者移送・治療管理)事業をキャンプ閉鎖に伴い、2004年10月より、パロチスタン州内の旧難民キャンプを対象にして活動展開している。2005年は、これに加えてパロチスタン州の地域住民をも対象として、遠隔地を対象としたレファラル事業に取り組んでいく。

難民社会への支援の充実と、援助動向の縮小とアフガニスタンへの移行。難民キャンプと受け入れ側地域社会との間での、生活環境の不均衡。こうした溝を埋め、隣国にとどまらざるを得ない難民の人々と長年に亘りそうした難民を受け入れてきた地域住民双方が、互いに共生できる環境を整えていくように支援を展開していくことが、2005年以降の課題といえる。今後とも引き続き皆様よりご関心を寄せていただけたら幸いです。



帰還用トラックへと向かう家族

被災地の子どもたちに絵本を届けました

ご協力ありがとうございました



スマトラ沖地震・津波緊急救援活動開始と共に、絵本のご寄附と、絵本の翻訳のお願いをしました。2週間という短期間に2000冊の絵本が届き、翻訳協力者による英訳の後、インドネシア、スリランカ、インドの子どもたちに届けました。

インドへ
インドネシアへ



2005年度AMDAプロジェクト(予定)

— アジア —

■カンボジア

- ・AMDAカンボジアクリニック(ACC)運営支援プロジェクト
- ・保健ボランティア育成・巡回診療プロジェクト

■ミャンマー

- ・母子保健プロジェクト
- ・エイズ予防コミュニケーション促進プロジェクト
- ・伝統(東洋)医療促進支援プロジェクト
- ・コーカン特別地域基礎保健促進プロジェクト
- ・マイクロクレジットプロジェクト
- ・子ども病院運営支援プロジェクト

■ネパール

- ・ダマック市AMDA病院支援プロジェクト
- ・ブータン難民キャンプPHCプロジェクト
- ・AMDAネパール子ども病院運営支援プロジェクト

■バングラデシュ

- ・保健衛生改善プロジェクト
- ・マイクロクレジットプロジェクト
- ・職業訓練センター運営支援プロジェクト

■ベトナム

- ・北部山岳地帯保健衛生改善支援プロジェクト

■スリランカ

- ・医療和平プロジェクト
- ・ワウニア地区保健サービス復興支援プロジェクト

■パキスタン

- ・アフガン支援プロジェクト
- ・パキスタン医療システム支援プロジェクト

— アフリカ —

■ケニア

- ・青少年育成支援プログラム
- ・エイズ予防促進プロジェクト

■ザンビア

- ・コミュニティ健康促進プロジェクト

■ジブチ

- ・難民医療支援プロジェクト
- ・ポール・フォール結核病院改修プロジェクト

■スーダン

- ・医療システム再建プロジェクト

— 中南米 —

■ペルー

- ・エイズ予防プロジェクト

■ボリビア

- ・救急救命人材育成支援プロジェクト

■ホンジュラス

- ・エイズ予防プロジェクト
- ・トロヘスコミュニティ開発支援プロジェクト

AMDA 高校生会メンバー募集

AMDA高校生会は1年間を通してAMDAスリランカ医療和平プロジェクト(特にスリランカの子ども達への巡回健康教育)を支援していきます。スリランカのプロジェクトを始めAMDAの他のプロジェクトについての勉強会や活動紹介のためのラジオ出演や各種イベント参加、街頭募金等を行っています。毎週火曜日と金曜日にメンバーがAMDA本部(岡山市榑津)に集まっています。

会費等無料 電話 086-284-7730 担当:難波

AMDA高校生会ホームページ <http://www.amda.or.jp/highschool/>
 新高校1年、2年生の皆さんの参加をお待ちしています。



NHKハートフォーラム
 AMDA「高校生の底力〜次世代人道援助NGOを担う〜」



AMDAスリランカプロジェクト支援
 フリーマーケット

AMDA プロジェクトスタッフ募集

- ・スーダンプロジェクト調整員・医療調整員
 - ・アフガン難民支援プロジェクト調整員・医療調整員
 - ・スリランカ医療和平プロジェクト診療放射線技師
- を募集しています。

※いずれも詳細はAMDAホームページをご覧ください。
 お問い合わせ先: 電話 086-284-7730 AMDA 広報室

AMDAの活動を
 支えて下さる
AMDA 会員募集

AMDA プロジェクトへのご支援をお願いします

AMDAの活動は今回のスマトラ沖地震・津波被災者支援等を行う短期的な緊急救援活動と、開発途上国で貧困に苦しむ人々を保健医療面や生活環境向上面で支援する中長期的な社会開発事業があります。現在14カ国で実施しています。

AMDA発足以来20年間の活動成果をもとに、さらなる事業の充実を図っていきたく考えています。皆様のご支援をお願いいたします。

AMDAへのご寄附の際には一般寄附と特定寄附(応援して下さるプロジェクト国や名前を明記してご寄附頂く)があります。同封の郵便払込票をご利用くださり、連絡欄に支援先をご明記ください。

郵便振込 口座番号 01250-2-40709 口座名 AMDA

*書き損じハガキ、未使用ハガキ・切手を集めています。
 (岡山市榑津310-1 AMDA宛)
 書き損じハガキは切手と交換し、通信費として使用しています。



株式会社 **道 担 神**
 The Travelers Guardian Inc.

〒108-0014 東京都港区芝5-13-18 MTCビル9階
 TEL: 03-3455-6111 FAX: 03-3455-2442
 〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25 ハービス PLAZA3 階
 TEL: 06-6343-7725 FAX: 06-6343-6328
 ホームページ: <http://www.dososhin.com>
 メールアドレス: info@dososhin.com